

平成30年度 学校自己評価表

境港総合技術高等学校

年 度 当 初					中 間 評 価 (9月)		
評価項目	具体的項目	現状	具体的目標	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■頭髮服装指導の再指導は、昨年度に比べ全体では減少傾向にある。 ■遅刻生徒数は昨年度比の16%減となった。 ■規範意識の乏しい一部の生徒に対し、粘り強い指導を継続的に行っている。 ■意識の低い生徒に「分離礼」「静止礼」に対する意識高揚が必要。	■自ら主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組む生徒を育成する。 ■頭髮服装再指導者を昨年度より20%減少する。 ■遅刻総数を昨年度より20%減少する。 ■無遅刻、時間厳守の習慣化を図る。 ■「分離礼」「静止礼」の挨拶を習慣化する。	■遅刻をなくす取組をクラスごとに推進する。 ■ルール、マナー、モラルの遵守など、本校の課題を生徒が自ら考え呼びかける取組を生徒会で一層推進する。 ■指導に対する保護者の理解を得ながら連携を密にし、生徒の規範意識の醸成を図る。 ■教職員が時間厳守、服装などの模範を示し、生徒の意識向上を図る。	■頭髮指導は、昨年度9月までと比較し再指導者生徒数が約18%増加。(H29:323人、H30:382人) ■遅刻生徒数は、昨年度9月までと比較し約26%減少。(H29:342人、H30:254人) ■問題行動は、昨年度9月までと比較し約68%減少。(H29:15件、H30:6件)多くの生徒が落ち着いて学校生活を送っている。	C	■頭髮指導は、日頃から指導に取り組むとともに、重点キャンペーンなどで規範意識の向上を図る。 ■遅刻確認表を活用した粘り強い指導と、繰り返す生徒への指導を強化する。
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■情報交換会を実施し、生徒の状況について共通理解を図り、ハイパー・QUアンケートによる生徒理解を深め、生徒支援を行うことができた。 ■朝読書の達成率は91.8%であり、学年、クラス間で差が見られるが、全体としては落ち着いて取り組んでいる。 ■SNSの不適切な使用による問題行動が散発し、規範意識の高揚が必要である。 ■人権意識調査(新入生4月)、いじめ実態調査アンケート(全学年)、人権講演会を行い、生徒の実態把握と、人権意識の高揚に努めたが、人権講演会は寒い時期に重なり問題があった。	■ホームルーム活動や生徒会活動を通して、円滑な友人関係を育成する。 ■スマポ、SNSによるトラブルを減少する。 ■朝読書の達成率を全学年95%を目指す。 ■人権感覚を身につけた生徒を育成する。 ■いじめのない学校づくりを行う。	■教職員間で生徒情報の共有・交換を図り、連携して指導にあたる。 ■境総合6か条、スマホリデーの取組を繰り返し行い、SNSのトラブルを未然に防止する。 ■日常の朝読指導や朝読強化週間の引率貸出、図書委員による読書推進活動等を充実する。 ■人権LHRだけでなく、機会あることに人権意識の向上に取り組む。 ■いじめアンケートを実施し、未然防止、早期発見に取り組む。 ■各自の良さや特性を理解し合える学級づくりを推進する。	■分掌、学年が連携し、生徒理解に努め指導にあたった。 ■6月の朝読実態調査の達成率は93.2%であった。(H29同期:92.0%)全体的に落ち着いて取り組んでいる。 ■人権意識調査(1学年4月)、いじめ実態調査アンケート(全学年)などを行い生徒の実態把握に努めた。いじめ防止LHR(全学年)、公正な採用選考LHR(3学年)などで人権意識の高揚に努めた。	B	■ハイパー・QU結果を検証し、適切な指導方法を検討する。 ■「スマホリデー」を有効利用しつつ、身近なルールを徹底させることで、他者の気持ちを気付けさせる。 ■生徒情報の共有を図り、迅速できめ細かな対応を行う。
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■多くの生徒がマナトレに意欲的に取り組み、基礎学力の向上に取り組んでいるが、成果の分析・検証に課題がある。 ■基礎力診断テストを実施し、その結果の分析会を実施した。保護者懇談会、生徒面談の中で、進路選択や学習指導に活かしている。 ■SPI対策の個別指導や補習を実施しているが、進学への対応が不足している。 ■学校公開週間の授業公開や「エキスパート教員公開授業」「教員スキルアップ研修」「ICTスキルアップ研修」を実施し、指導力の向上や授業改善を図った。	■授業改善によって生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進する。 ■生徒のやるきを引き出す指導力の向上を図る。 ■基礎・基本、発展までステップアップできる指導方法を工夫する。	■マナトレや基礎力診断テストの年度ごとの結果を分析し、指導に活かす。 ■生徒による授業評価アンケート結果を分析し、授業改善に取り組む。 ■シラバスに基づく授業実践と、観点別評価に基づく指導の手立ての充実を図る。 ■習熟度別の指導や、進度別の個別指導により生徒の学習能力を引き出す。 ■教職員のアクティブ・ラーニング研修やICT活用研修を推進する。	■基礎力診断テストを実施し、その結果の分析会をした。生徒面談や保護者懇談会で、学習指導や進路選択に活かした。 ■夏季休業中に進学学習会を実施し、進学指導の充実を図った。SPIの補習を数学科が実施し、傾向と対策の演習を実施した。 ■ICTの活用が少しずつ定着しつつあるが、十分とはいえない。	B	■入学時の学力水準を維持・向上させるため、マナトレや補習等の充実を図る。 ■冬期休業中も進学学習会を実施し、進学に対する意欲を向上させる。 ■ICT推進リーダーによる校内研修を実施し、授業力の向上を図る。
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■より高度な資格にチャレンジできるよう、1学年から個別指導を行い、意欲向上につながった。 ■資格試験の意義や重要性を理解させるとともに、きめ細かな補習や指導を各科で実施した。 ■各科連携により、総合技術フェアをはじめとする多くの事業を実施することができた。	■時代にマッチした専門教育を深化する。 ■資格・検定試験の合格率を向上する。 ■総合技術フェア、課題研究発表会での学習成果発表会を充実させる。	■ネットワーク会議を通して、教育内容が産業界の実態と合致しているか検証し、授業内容や実習内容の確認を行う。 ■専門教科の深い学びが資格取得に繋がり、将来の職業選択に結びつくことを理解させる。 ■総合技術フェアの日程、内容を引き続き検討する。 ■課題研究発表会の開催日を検討し、1、2年生が参加できるようにする。	■資格試験の意義や重要性を理解させると共に、補習や個別指導を各科で実施した。 ■より高度な資格にチャレンジできるよう、1学年から意欲の向上を図った。 ■総合技術フェアに向けて、各科が協力して連携事業に取り組んだ。 ■課題研究発表会を平日開催に変更する。	B	■ネットワーク会議委員との意見交換を通して、最新の産業界の実態を把握し、授業改善に活かす。 ■専門学科の深い学びが資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを理解させる。 ■各科の専門性を効果的に融合し連携事業を強化化する。
3 キャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■進路LHRや「キャリア塾」等で進路意識の向上を図ることができた。 ■進学対策として、「作文・小論文指導」に力を入れた。 ■応募前職場見学会の充実を図るとともに、今春地元就職した卒業生に対し、就職支援相談員と各科教職員で定着指導を行った。 ■進路意識を高めるインターンシップを実施できた。企業アンケートでは、生徒の状況は良好と評価を受けた。	■進路指導計画に基づいた指導を徹底する。 ■進路ガイダンス、保護者説明会の充実を図る。 ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する。 ■入社後の離職率を減少する。	■進路情報を早期に提供し、進学、就職別の指導計画を示し、3年間を見通した進路指導に取り組む。 ■インターンシップの事前・事後指導を更に徹底する。 ■生徒のニーズや適性を踏まえ、ミスマッチを防ぐ就職指導を行う。	■インターンシップや進路LHR等で進路意識の向上を図った。 ■就職のミスマッチを防ぐため、応募前職場見学会の事前、事後指導を徹底した。 ■今春就職した卒業生に対し、就職支援相談員と各科教職員で定着指導を行った。	B	■1、2学年を対象にキャリアセミナーと進学ガイダンスを実施し、進路意識の向上を図る。 ■インターンシップ企業アンケートから企業の求める人材を把握し、職業観・勤労観を醸成させる。
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■土曜授業等実施事業をはじめ、なかよしフェスティバル開催、介護技術コンテスト参加など、地域交流活動、各種ボランティア活動に参加するなど、地域貢献・地域連携を積極的に行った。 ■県版SPH事業により地域連携・各科連携を深めることができた。 ■手話パフォーマンス甲子園に4年連続出場し、交流活動を促進した。	■地域連携、地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ、役立ち感、有用感を育む。 ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する。 ■手話を学ぶことを通して、障がいに対する理解を深める。	■土曜授業等実施事業での体験を活用した生徒育成を推進する。 ■地域貢献活動により多くの生徒が参加するように取り組む。 ■1年生での手話指導を促進する。	■土曜授業等実施事業をはじめ、地域交流活動、各種ボランティア活動に多数参加するなど、地域貢献・地域連携を積極的に行った。 ■土曜授業等実施事業では、乗船実習の日程や担当者が変更したことにより、イベントへの参加回数が減少した。 ■県版SPH事業により、地域連携・各科連携を深めることができた。 ■手話パフォーマンス甲子園に5年連続本選出場を果たした。	A	■地域の公民館で出前授業を実施し、地域活動に積極的に取り組む。 ■県版SPH事業運営指導委員会の意見を授業や教育活動の中に反映させる。 ■今後も手話パフォーマンス甲子園出場できるよう、手話の取組を充実させる。 ■ボランティア活動を推進し、鳥取県福祉ヘルプメイト取得者を増やす。
	学校教育活動の情報発信	■特色ある取組を積極的にマスコミへ情報提供を行い、テレビ、新聞等で報道・掲載につながった。 ■各種実習内容のホームページ掲載を充実させた。 ■新しい情報のホームページの掲載・更新の頻度が科、学年、部活動ごとに開きがある。	■特色のある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める。 ■ホームページによる情報発信の充実を図る。	■情報発信は、誰にでもわかりやすい表現を用いる。 ■ホームページの更新を適宜行い、情報発信に努める。	■特色ある活動を積極的にマスコミへ情報提供を行い、テレビ報道や新聞掲載につながった。 ■新着情報のホームページ掲載頻度が科ごとに開きがある。	B	■各科が積極的にホームページを更新するよう努める。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し

【80%以上】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】